

研究課題名	AIを用いた頭部外傷救急患者のトリアージ・予後予測システム構築のための他施設前向き観察研究
研究機関名	東京医科歯科大学、武蔵野赤十字病院、災害医療センター、土浦協同病院
研究責任者	武蔵野赤十字病院 所属 脳神経外科 氏名 玉置正史
研究期間	臨床研究倫理委員会承認後 ～ (西暦) 2027 年9月30日
研究の意義・目的	重症頭部外傷では、迅速な外科的治療介入の有無により、患者の生命予後および機能予後が大きく影響されます。そのため、治療が必要な患者を適切に層別化し、治療可能な施設へと搬送することが予後の改善には重要と考えられます。本研究の目的は、頭部外傷患者の重症度を受傷現場で救急隊が現場で聴取可能な情報から層別化し、適切な施設へと搬送するための機械学習を用いたアルゴリズムを構築することです。また構築したアルゴリズムを用いてその精度を検証します。
研究の方法 (対象期間含む)	頭部外傷にて研究施設へ救急搬送となった患者さんの情報を前向きに収集し、匿名化してデータベース化します。収集されたデータベースは、匿名化をしたのちにデータベースファイルとして東京医科歯科大学に集約し、管理いたします。これらのデータを用いて、来院後に施行した頭部CT検査での外傷性頭蓋内出血の有無や、手術加療の必要性の有無、生命予後、機能予後について、機械学習によりモデルを構築して結果を予測するアルゴリズムを作成し、その精度を検証します。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む)	①当院に頭部外傷にて搬送となった患者さんの情報を、匿名化して利用いたします。具体的には、通常の救急診療で作成される搬送記録、診療記録から必要なデータを抽出して、匿名化してデータベースを作成します。
②利用し、又は提供する 試料・情報の項目	②救急隊接触時、病院到着時、来院後経過の以下の項目を研究に用います。身体状況・神経学的所見(意識レベル、体温、心拍数、呼吸数、血圧、瞳孔径、対光反射、体表上の頭部打撲痕、嘔吐、意識消失、痙攣、意識レベル低下、片麻痺、多発外傷、開放または陥没骨折の有無)、受傷状況(高エネルギー外傷)、受傷前状況(飲酒、抗凝固薬内服の有無)、来院後のCT所見、および外科的治療(ICPモニター留置、手術加療)。
③利用する者の範囲	③提供いただいた医療データは厳重に管理保管され、本研究のみに使用されます。
④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	④資料・情報の管理については、当院においては研究責任者 玉置正史がその責任を有し、提供されたものについては主研究機関である東京医科歯科大学 脳神経外科 稲次基希 が責任を有します。
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 脳神経外科 氏名 荻島隆浩 玉置正史  TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525